

コロナ禍における開催期間の延伸による バルイベント開催の実現

—兵庫県三田市と大阪市福島区を事例として—

石 原 肇[†]

Extending *Baru Ibento* Durations During the COVID-19 Emergency in Sanda City and Fukushima Ward in Osaka City

ISHIHARA Hajime[†]

Abstract

The purpose here is to report on the state of *baru ibento* (bar events) during the COVID-19 pandemic and resulting mitigation efforts by local governments. Here, the cases of “Sanda Bar” in Sanda city (Hyogo pref.) and “Fukushima Bar” in Osaka city, Fukushima ward are introduced and the two points they have in common are discussed. We found that the *baru ibento* organizers for both events have implemented strict measures against the spread of COVID-19. A second point is that the event durations were extended in comparison to the scheduling of past *baru ibento*. These two key factors may have been instrumental in allowing both local organizations to hold the annual fall event in 2020, despite COVID-19 and related mitigation and restrictions.

要 旨

本稿の目的は、コロナ禍におけるバルイベントの実施について報告することである。本稿では、「三田バル」と「福島バル」を事例とした。両者に共通するのは、以下の2点である。1点目は、コロナ対策の徹底をしていることである。2点目は、従前と比較して開催期間を延伸していることである。2020年秋、コロナ禍にも関わらず、両者がバルイベント実施を実現できたのは、これらが要因であると考えられる。

キーワード：コロナ禍，バルイベント，開催期間の延伸，兵庫県三田市，大阪市福島区

Keywords : COVID-19 disaster, *Baru Ibento* (Bar Event), extending holding period,

[†] 大阪産業大学 デザイン工学部環境理工学科非常勤講師（近畿大学 総合社会学部総合社会学科教授）

草 稿 提 出 日 11月16日

最終原稿提出日 12月19日

Sanda City, Hyogo Prefecture, Fukushima Ward, Osaka City

1 はじめに

(1) 研究の背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生により，日本では感染拡大の防止の観点から，改正新型インフルエンザ特別措置法に基づき2020年4月8日に緊急事態宣言が発令された。国民とあらゆる業界に，密閉，密集，密接のいわゆる三密を避けるための行動が求められた。同年5月25日に全都道府県で緊急事態宣言は解除されたものの，引き続き感染防止の観点からの行動が基本となっている。

近年，中心市街地の活性化策として，「100円商店街」「まちゼミ」「バルイベント」が注目されている（長坂他，2012）。「バルイベント」は，街を飲み歩くイベントであり，2004年の「函館西部地区バル街」での開催に始まった。函館での開催を端緒として，2009年に千葉県柏市や兵庫県伊丹市で開催され，その後，全国各地での開催が飛躍的に増加してきている。松下（2013）は，「函館西部地区バル街」について，バル街とは，西部地区とバル街マップ（ガイドマップ），ピンチョー（つまみ）の3つで構成されている飲み歩きイベントであるとしている。参加者は，例えば「函館西部地区バル街」では，1冊5枚のチケットを3,500円で購入し，飲食店はチケット1枚で1ドリンク・1フードを提供するものとなっている。

バルイベントは，1日あるいは2日で実施される場合が多く，参加者がまちなかを回遊し，飲食店をはしごすることから賑わいを創出する。しかし，新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点から，参加者の三密を回避する対応が求められる。筆者の知る限りでは，近畿地方で2020年3～5月に予定されていたバルイベントは，例えば「八尾バル」「伊丹まちなかバル」「北船場（バ）ル」「芦屋バル」等軒並み中止となった。

大友（2020）によれば，緊急事態宣言による不要不急の外出の自粛要請，娯楽目的の外出や必要品の購入以外の外出が激減したとしている。また，とりわけ飲食事業は，固定費として人件費と家賃が大きな割合を占めているため，急激な需要の減少に対応することが極めて困難であることが露呈したとしている（大友，2020）。従前より中心市街地の活性化が課題であったところに，コロナ禍となっており，緊急事態宣言解除以降の早期復興は大きな課題となっていると言えよう。

（２）先行研究

このような中、地域によっては、新型コロナウイルスの影響からの復興を目指し、中心市街地活性化策が講じられる動きが見えはじめてきている。泉山他（2020）は、「コロナ道路占用許可」における路上客席の可能性と課題として、路上客席の緊急措置に関する速報的考察を行っているが、全国的な動向を把握したに止まっている。

石原（2020a）は、コロナ禍における兵庫県伊丹市にみる飲食店支援施策の迅速な展開について報告している。伊丹市は、中心市街地活性化基本計画策定市であり、従前より様々な活性化イベントを実施してきており、ことに「伊丹まちなかバル」は有名で2009年から継続開催してきているが、2020年の春のみならず、秋も「伊丹まちなかバル」の開催を断念している。伊丹市では、2020年5月1日から「伊丹テイクアウト&デリバリープロジェクト」を実施している。また、同市のサンロード商店街では道路占用により2020年7月17日から「ナイト照らす。（テラス）」を定期的に開催している。さらに、秋の「伊丹まちなかバル」の開催予定日であった2020年10月17・18日には、中心市街地区域の中央に位置する三軒寺前広場を活用し、例年夏と冬に開催している「伊丹郷町屋台村」を実施している。

バルイベントについてみると、石原（2020b）は、大阪府門真市の「かどま元気バル」では、2020年11月の開催に向けて、緊急事態宣言解除後の同年6月から直ぐにプレイベントを実施しつつ、様々な準備を進めていることを報告している。「かどま元気バル」は2012年の第1回からこれまでに9回開催されてきたが、従前の短期間での開催から変更して、第8回と第9回は約2ヶ月間の開催とし、参加者により多くの参加飲食店に足を運んでもらうこととしていた。2020年11月の本開催は1ヶ月間の開催期間として、コロナ対策を行いつつ開催に至る。

（３）研究の目的

筆者は上記の報告（石原，2020a）をするにあたり、他の地域の状況も把握した。その過程で、兵庫県三田市と大阪市福島区では、従前と比較して開催期間を延伸することによってバルイベントを開催するとの情報を得た。そこで、本稿では、コロナ禍における地域復興に向け、従来地域活性化策として実施されてきていたバルイベントの開催期間延伸による実施について速報的に報告することを目的とする。

なお、本稿は、新型コロナウイルスの感染拡大を望むものではないことを強調しておく。本稿執筆時である2020年11月は、全国的に感染者数が増加し、いわゆる「第3波」が到来しているのではないかと報道がなされている。本報告は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りつつ、復興に向けた地域活性化の取組みを報告することで、他の地域での参

考に資することに意義があるものとする。

2 研究対象地域および研究方法

(1) 兵庫県三田市

三田市は兵庫県の南東側にある阪神地域の北西部に位置し、面積210.32平方キロメートル、人口約11.3万人（2015年国勢調査）を有する市である。同市は、1980年代からの大規模住宅団地の開発と、JR福知山線の複線電化の利便性向上により、大阪市や神戸市の衛星都市として急激な発展を遂げたが、阪神地域の中では比較的豊かな自然が未だ残っている地域である。

「三田バル」は2011年10月8日に第1回が開催されて以降、毎年1回開催されてきており、2020年の開催は第10回にあたる。「三田バル」の特徴としては、第1回からバルイベントを通じて地産地消の取組みが進められていることである（石原、2019）。

2020年10月1日に「三田バル」が本年は「三田バルウィーク」として開催するとの情報を得て、2020年10月19日に実行委員長への電話とメールによる聞き取りを行った。また、2020年10月25日に現地調査を行った。さらに、2020年11月26日に「三田バルウィーク」の実施結果についてメールによる聞き取りを行った。

(2) 大阪市福島区

大阪市福島区（4.67km²）は、北区、中央区、西区、浪速区、天王寺区とならぶ「大阪都心6区」の1つであり、中心業務地区である梅田のすぐ隣に位置する周辺業務地区と考えられる。2000年以降、都市再生が進められ、近年、福島区は大きく変貌してきており、2015年国勢調査によれば人口約7.4万人で、新しい住民が増加してきている特徴がある。

「福島バル」は2011年11月5日に第1回が開催されて以降、毎年2回開催されてきており、昨秋2019年秋に第17回を数えた。同区の「野田バル」とともに「福島バル」は継続的に開催されており、地域の活性化に寄与しているとともに、福島区内で他のイベントが開催される場合に、実行委員会と参加飲食店が大きな役割を果たしており、また、福島区役所が主催するイベントにも実行委員会と参加飲食店が大きく貢献してきている（石原、2020c）。

しかし、2020年春は新型コロナウイルスの影響から開催を見合わせていた。2020年10月20日に「福島バル」が1年ぶりに開催するとの情報を得て、2020年10月26日に「福島バル」の実施主体である元気なお店創造委員会事務局へのメールによる聞き取りを行った。また、

コロナ禍における開催期間の延伸によるパルイベント開催の実現—兵庫県三田市と大阪市福島区を事例として—（石原 肇）

2020年11月14日に現地調査を行った。さらに、2020年11月26日に「福島バル」の実施結果についてメールによる聞き取りを行った。

3 開催期間延伸によるパルイベントの実施

（1）三田バルウィーク

「三田バル」は、従来は1日の開催期間である。写真1は2016年に撮影したものであるが、従来は駅前に本部 TENT を設置し、多くの参加者が出る。このため、写真2は2019年に撮影したものであるが、かなりの人混みが発生する参加飲食店もある状況にあった。

実行委員長にヒアリングを行った。飲食店は年末の企業や役所による忘年会での利用が期待できず、一般客に店を知ってもらう機会を欲していた。当初、市役所は1日での開催に難色を示していたとのことである。兵庫県宝塚保健所と協議し、7日間での開催で了解を得た。このようなことから、2020年の「三田バル」は、「三田バルウィーク」として実施するに至っている。

開催期間は2020年10月25日から同年10月31日までの1週間となった。参加飲食店の募集



写真1 2016年「三田バル」本部の様子
資料：2016年10月8日筆者撮影



写真2 2019年「三田バル」の様子
資料：2019年11月3日筆者撮影

三田バルウィーク 2020 参加店募集のお知らせ



SANDA BAR WEEK2020

ウィズコロナの時代に対応した 新しい形の三田バルウィーク 2020 を開催します!!

三田バルウィーク 2020、新しい生活様式の飲み歩きが、2020年10月25日(日)～31(土)までの1週間、三田駅周辺・三輪・西山・南ヶ丘エリアの飲食店・小売店で開催します。来店時の密を避けるのが目的です。これまでの土曜日単日開催では、どうしても行列ができてしまい、密になります。今回の提案では週末を含む1週間の開催で、参加者が分散しつつ複数店舗を回遊してもらえようとしています。店舗の定休日や都合もあるので各参加店舗はその中で4日以上の参加をお願いします。またスムーズな展開を行うためにパルメニューのみの注文は20分で席移動のお願いを徹底します。

【参加条件】

- ①三田バルウィーク開催エリア（三田駅周辺、三輪、西山・南ヶ丘等）の飲食店・小売店
- ②4日以上参加可能な店舗
- ③ガイドラインに基づく感染防止対策導入並びに感染防止対策宣言書の提示

集客別ガイドライン：https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk03/corona/corona_guideline.html
感染防止対策ポスター：<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk42/sengenposter.html>
※ポスターは各店舗でダウンロードのうえ、印刷し掲示してください。

- ④兵庫県新型コロナウイルス導入システム導入
https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk39/covid19_chase.html

【参加費】参加店舗：無料

参加店申込締切日 9月11日(金)迄※期日厳守



主催：三田バル実行委員会・三田市商工会 TEL079-563-4455

三田バルウィーク 2020
新しい夜明け！
三田バルウィーク 2020
申込フォーム

図1 「三田バルウィーク」の募集チラシ
資料：実行委員会提供



写真3 2020年「三田バルウィーク」本部の様子
資料：2020年10月25日筆者撮影



写真4 2020年「三田バルウィーク」の様子
資料：2020年10月25日筆者撮影



図2 「三田バルウィーク」の参加者向けチラシ
資料：2020年10月25日現地調査にて入手（実行委員会作製）

のチラシを図1に示す。「これまでの土曜日単日開催では、どうしても行列ができてしまい、密になります。今回の提案では週末を含む1週間の開催で、参加者が分散しつつ複数店舗を回遊してもらえようにします。店舗の定休日や都合もあるので各参加店舗は其中で4日以上に参加をお願いします。またスムーズな展開を行うためにバメニューのみの注文は20分で席移動のお願いを徹底します。」と新型コロナウイルス対策の徹底が呼び掛けられている。参加条件として、①三田バルウィーク開催エリアの店舗、②4日以上に参加が可能な店舗、③ガイドラインに基づく感染防止対策導入並びに感染防止対策宣言ポスターの掲示、④兵庫県型コロナ追跡システムの導入の4点が示されている。

参加店舗数は前年の70店から50店まで減少している。今回参加を見合わせた飲食店は、開催期間が長いことや店舗の構造上の課題などが理由となっているとのことであった。

筆者は初日の2020年10月25日に現地調査を行った。本部は簡素になっている(写真3)が、開催範囲に変更はない。従前はバルマップブックであったが、お店紹介のチラシに簡素化されている(図2)。従前はチケット制であったが、図3に示す参加証方式での開催となっている。また、従前は、あとバルを実施しているが、今回は実施していない。写真2と同じ店舗を撮影したのが写真4である。初日で、日曜日の夕方17時の様子は、まだそれほど参加者で混み入った状況ではなかった。

なお、開催後に実行委員長に実績をうかがったところ、参加証販売数は約950個であったとのことである(表1)。昨年はチケット方式であり約1,500冊が販売されたとのことであった。参加証販売数とチケット販売数とでは単純な比較はできないが、前年と比較して参加者数はやや減少しているものと推察される。また、参加飲食店からは概ね良い反応であったとのことである。実施のタイミングは11月に入ってからコロナ感染者数の増加傾向が始まる直前で良かったこと、イベント終了後も参加者から陽性反応者が出たわけでは

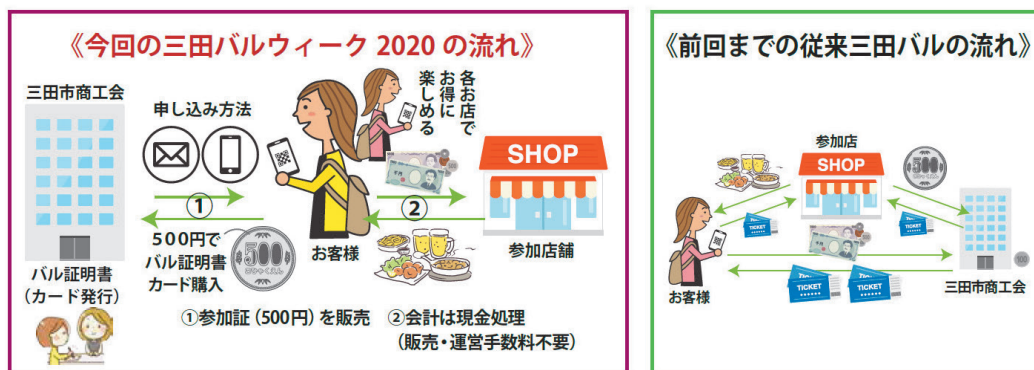


図3 「三田バルウィーク」の募集チラシに記載の仕組みの変更説明図

資料：実行委員会提供

表1 三田バルの第10回（2019年）と第11回（2020年）との比較

	第10回	第11回
開催日（日数）	2019年11月2日（1日）	2020年10月25日～31日（7日）
あとバル	7日間	－
参加飲食店数	70	50
チケット販売数	約1,500冊	－
参加証販売数	－	約950個

資料：実行委員会へのヒアリング結果に基づき筆者作成

ないので成功と言えるとの見解が示された。

「三田バル」は、密集の回避を目論んで開催期間の延長が行われた例として捉えられよう。飲食店が復興していくためにもバルイベントを継続開催していくことが実行委員長の目指すところであり、その実現がなされたことは大きな成果と考えられる。

（2）福島バル

「福島バル」は、2020年は11月14日・15日に実施することとなった。従来は1日の開催期間であるところ、2日間の開催になっている。

実行委員会事務局にヒアリングした結果は以下のとおりである。開催時期については、2020年8月末に実施を決定している。かなり悩んだが、お店も街も疲弊していたので少しでも元気になるお手伝いが出来るのではないかと考えた。

開催にあたっては、福島区役所とも協議して開催を決定している。福島区役所の意向というよりは、想いが重なって、福島区役所主催の「ふくしまてんこもり2020」と同時開催になった。「ふくしまてんこもり2020」も三密を避けるために、公園や朝日放送などで参加者が詰まる従来のイベントスタイルを止める必要があった。このため「まちあるき」を主として福島エリア内の各



図4 「ふくしまてんこもり2020」冊子の表紙

資料：2020年11月14日現地調査にて入手
(大阪市福島区役所作製)

コロナ禍における開催期間の延伸によるバリエーションイベント開催の実現—兵庫県三田市と大阪市福島区を事例として—（石原 肇）

所で行われる小ぶりのイベントを、時期を集約することで総称として「ふくしまてんこもり2020」としている。2020年に関しては、第18回「福島バル」もそのひとつというスタンスになっている（図4、図5）。コロナ禍だからやるかやらないかの0 or 100ではなく、どうすれば出来るかを考えようという結果、それが従来の30でも50でも良いのではということに至った。

従来は、「福島バル」は土曜日の1日開催であった。今回は、長期開催も視野に入れたが、長期だとお店に負担が掛かると判断した。今回は、ささやかではあるが、本番1日開催を2日開催にする事で来場者の分散を図ることとし、あわせて“あとバル”（残ったバルチケットを金券として使用できる）の期間を従来の約1週間から2週間に伸ばした。参加者も参加飲食店もチケットを無駄なく使用いただくことを考えるとともに、少しでも三密を避けるための方策とした。

参加店舗数は、前回の72店舗から56店舗になった。このうち新参加店は7店舗である。今回参加しない店舗の理由は、今年に入って閉められたお店が数店あること、コロナ禍を考慮してお店および経営会社の方針として当面落ち着くまでイベントなどへの参加を控える方針を出している、コロナ禍の影響でスタッフの人数を削減していてバルの対応に自信

ふくしまてんこもり グルメ

お肉料理、スイーツ、和食、餃子、などへ。福島エリアが誇る飲食店が多数参加。なじみの店に行きお祝い、以前から気になっていたお店をのぞいてみるのも楽しい。バルチケットを持って、新しい行きつけのお店を見つけよう。

限定メニューを楽しむ

11月14日(土)・15日(日)の福島バル当日は、56の参加店でバル限定メニューを楽しむことができます。チケット別で1店1人1枚がルール。混雑してさらさらの人へすばやく席を譲るのが「バル通」です。「チケットが余った」「当日参加できなかった」そんな人も心配ご無用。イベント終了後も「あとバル」実施店(11月16日～29日)で1枚660円の金券として支払いの一部にご利用いただけます。

バルチケットをゲット!

5枚綴りのバルチケットは前売券3,300円、当日券3,800円(バラ券は当日のみで1枚760円)。前売券・当日券ともに数に限りがございますので売り切れの際はご了承ください。
【バル本部・ホテル阪神大坂となりラグザ大坂 荒川印房・聖天通商店街内】

	前売り券	11月14日(土)	11月15日(日)	取り扱いチケット
ホームページ	予約可	—	—	5枚綴り
バル本部	—	11:00～21:00	11:00～19:00	5枚綴りバラ券
荒川印房	営業時間内	11:00～19:00	—	5枚綴り
バル参加店	営業時間内	営業時間内	営業時間内	5枚綴り

※ホームページからご予約された方は、バル当日は本部にお越しください。

56店!

参加店&バルメニュー

5枚綴りチケットに付いている応募券を切り取り郵便はがきに貼って必要事項をご記入の上、送ると抽選で素敵なプレゼントが当たります。

コロナウイルス対策

福島バルに参加している飲食店は、コロナウイルス対策を実施しています。

- 1 大阪府の感染防止宣言ステッカーの取得と設置
- 2 「大阪コロナ追跡システム」のQRコードの設置
- 3 参加全店に対して「感染症予防及び食品衛生講習会」を実施しました!

福島区保健福祉センターでは、区内在住・在学・在職の団体・グループに対して、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の正しい知識と予防についての出前講座を実施しております。今回「福島バル」に参加するすべての飲食店及び事業者に対して6回に分けて講習会を実施しました。講習会では、参加全店における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するための感染予防策について講義、各店舗の状況と取り組みを説明した上で説明会、また、講習会の受講を通じて、お客様の安全安心を改めて考えていただく機会となりました。

参加されるお客様にお願い

- マスク・フェイスシールド・マウスシールド等の着用
- 店舗に設置の消毒液を使用して入店してください
- 退場時は問合を空け、近隣の飲食・住宅にご配慮ください
- 飲食時に大声で騒いだりしないください

図5 「ふくしまてんこもり2020」冊子での「福島バル」の紹介

資料：2020年11月14日現地調査にて入手（大阪市福島区役所作製）

がないなどである。

なお、不参加の多くの飲食店は、今回参加を控えるが福島バルを応援していると言っていること、また野田の飲食店からは、是非安全に成功させて欲しいとの声があるとのことであった。福島で成功すると目標が出来て元気になれるとのことからである。

開催に当たっては、今回のバルへの参加飲食店には、福島区保険福祉センターの協力による「感染症予防及び食品衛生講習会」を開き、バル参加全店受講を条件とした。保健師による講習を受講し飲食店には、受講済証（ステッカー）を発行した（図6）。感染症に対する知識と意識を学んでもらい受講内容をお店に戻って全員で共有してもらうことで、参加者だけでなく飲食店のスタッフに対しても安全で安心してもらえる環境に繋がると考えたからである。また、正しい知識と意識を持った飲食店が増える事は、エリアの安全安心にもつながると考えられる。

このように大阪市福島区では実行委員会がコアになり、飲食店の意向、福島区役所の意向を重ね合わせ、第18回「福島バル」の開催が実現している。筆者は開催初日の2020年11月14日に現地調査を行った。本部はJ R大阪環状線福島駅そばに従前どおり設置されており、同一地に福島区役所が実施主体の「ふくしまてんこもり2020」の本部も設置されていた



図6 「感染症予防及び食品衛生講習会」
受講済証（ステッカー）

資料：実行委員会提供



図7 第18回「福島バル」バルマップ
資料：2020年11月14日現地調査にて入手
（実行委員会作製）

コロナ禍における開催期間の延伸によるパルイベント開催の実現—兵庫県三田市と大阪市福島区を事例として—（石原 肇）



図8 第18回「福島バル」バルマップのマップ
資料：2020年11月14日現地調査にて入手（実行委員会作製）

表2 福島バルの第17回（2019年）と第18回（2020年）との比較

	第17回	第18回
開催日（日数）	2019年11月16日（1日）	2020年11月14日～15日（2日）
あとバル	7日間	14日間
参加飲食店数	72	56
チケット販売数	2,119冊	1,847冊

資料：実行委員会へのヒアリング結果に基づき筆者作成

（写真5）。バルマップ（図7）は従前と同様で、開催範囲もこれまでの「福島バル」の開催範囲と同じである（図8）。写真6は待ち客の列の様子であるが、長蛇の列というほどではなく、また、道路には待ち客用の並ぶ位置が示され、密接を回避するように記されていた。

なお、開催後に実行委員会に実績をうかがったところ、チケット販売数は1,847冊であったとのことである（表2）。この数字は、昨年の第17回のチケット販売数である2,119冊と比較して、87%となる。また、web予約者のチケット引き換えは、11月14日と11月15日の比率は3：1であったとのことで、従来開催されてきた土曜日に多くの参加者が参加したことがうかがわれる。参加者からは、概ね好評であったとのことである。また、参加飲食店からは、このタイミングで実施出来た事は、希望に繋がったとの声を頂いたとのことである。福島区役所は、出来る対策をしっかりと実施出来た事に自信を得たであろうとのことである。実行委員会としては、事故やトラブルも無く運営出来て、ひとまずホッとしたとのことであった。



写真5 第18回「福島バル」本部の様子
（右奥が「福島バル」本部、左手前が「ふくしまてんこもり」本部）
資料：2020年11月14日筆者撮影



写真6 第18回「福島バル」参加飲食店に並ぶ参加者の様子
資料：2020年11月14日筆者撮影

「福島バル」は密集の回避を目論んでの開催期間の延長が行われた例として捉えられよう。実行委員会が福島区役所や飲食店と連携して新型コロナウイルス対策の徹底の上でバルイベントの開催を目指し、その実現がなされたことは、福島地区だけでなく野田地区への希望ともなり、大きな成果と考えられる。

4 まとめ

本稿では、コロナ禍における2020年秋のバルイベントを実施するに至った「三田バル」と「福島バル」の2つの事例をみてきた。共通するのは、実行委員会が飲食店の意向や行政機関の意向を重ね合わせ、実現できる方途を探り、その結果として、新型コロナウイルス対策の徹底をするとともに、従来と比較して開催期間を延伸して実施に至っていることである。また、参加飲食店の数は、様々な要因から「三田バル」「福島バル」ともにやや減少している。先行研究で示した「かどま元気バル」のように既に2回の長期間開催の実績のあるところは、参加飲食店も長期開催のバルイベントに参加する経験があり、その経験を活かした。本稿で取り上げた2事例は新たに期間を延伸しての開催となり、実行委員会と参加飲食店ともに試行的であったと考えられる。新型コロナウイルスへの対応が今後どれだけの期間を要するかは現時点では不明である。開催期間延伸による対応は、参加者の密集の回避を図る方策の実行であり、新しい行動様式をふまえて賑わいの創出を図るという難題を克服するための一歩と考えられる。今後も引き続き、両地域の取組みとともに、他の地域あるいは他の実施方法についても注視していく必要がある。

謝辞

本研究を進めるにあたり、三田バル実行委員会委員長の梅澤豊和様および福島バルの実施主体である元気なお店創造委員会事務局の久保優治様、奥川麗様には、お忙しい中、資料の提供やヒアリングへの対応等をいただいた。ここに記してお礼を申し上げる。なお、本稿は日本都市学会第67回大会シンポジウム「新型コロナ感染状況下生きる―都市／大学（教育研究）／市民生活―」において伊丹市に関する報告に加え、三田市と大阪市福島区の取組みを話題提供した内容に、その後の現地調査や収集した情報を加えて構成したものである。

参考文献

- 石原 肇 (2019)「近畿圏3地域における地産地消をコンセプトとしたバルイベントの比較」『地域活性研究』第10巻, 41-50ページ。
- 石原 肇 (2020a)「コロナ禍における兵庫県伊丹市にみる飲食店支援施策の迅速な展開」『日本都市学会第67回大会シンポジウム「新型コロナウイルス感染状況下に生きる－都市／大学（教育研究）／市民生活－」要旨集』, 6ページ。
- 石原 肇 (2020b)「新型コロナウイルスの影響からの地域活性化に向けた飲食店群のトライアル－大阪府門真市「かどま元気バル」の取組みからの示唆－」『地域活性学会研究大会論文集』第12号, 136-139ページ。
- 石原 肇 (2020c)「バルイベントの継続開催とそれに伴う他の地域活性化事業への展開－大阪市福島区の事例－」『大阪産業大学論集 人文・社会科学篇』第39巻, 71-101ページ。
- 泉山壘威・西田 司・石田祐也・宋 俊煥・矢野拓洋・濱紗友莉・小原拓磨 (2020)「「コロナ道路占用許可」における路上客席の可能性と課題－新型コロナウイルス感染症に伴う路上客席の緊急措置に関する速報的考察－」『都市計画報告集』第19号, 284-289ページ。
- 大友信秀 (2020)「観光マーケティングは地域に何を与えるか? (2)－新型コロナウイルス感染拡大 (パンデミック) 後のパラダイムシフト－」『金沢法学』第63巻第1号, 1-8ページ。
- 長坂泰之・齋藤一成・綾野昌幸・松井洋一郎・石上 僚・尾崎弘和 (2012)『100円商店街・バル・まちゼミ お店が儲かるまちづくり』, 学芸出版社, 253ページ。
- 松下元則 (2013)「函館西部地区バル街の概観: 歩み・参加者行動・仕組み」『福井県立大学論集』第41巻, 87-112ページ。